

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

July 16, 2021

ECB 理事会のフォワードガイダンスに注目

- ◆ドル円、27-28 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) を控えて動きづらい展開か
- ◆米 6 月の住宅着工・建設許可件数や景気先行指数にも注目
- ◆ユーロドル、ECB 理事会でのフォワードガイダンス変更にも注目

予想レンジ

ドル円 106.00-111.00 円
ユーロドル 1.1500-1.2000 ドル

7 月 19 日週の展望

ドル円は上値が重い展開か。27-28 日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) を控えて動きづらい展開が予想される。パウエル FRB 議長は、議会証言での質疑応答で「FRB は高インフレの状況を非常に注意深く監視。テーパリング (資産購入の段階的縮小) については今後数週間で再度協議する予定。物価上昇で予想が大きく崩れた場合、FRB は金融政策を変更する」と述べた。FOMC では、6 月の消費者・生産者物価指数の上昇を受けて、テーパリングの開始時期が協議され、8 月 26-28 日のジャクソンホール会合でパウエル FRB 議長が 9 月 FOMC での開始公表を発表するのではないかと、との警戒感が高まっている。

また、米国では 8 月 1 日に法定債務上限が復活するが、イエレン米財務長官は、連邦政府の債務上限を早急に引き上げるか上限適用を停止するよう議会に要請するとともに、このままでは 8 月中にも米国が債務不履行 (デフォルト) に陥る深刻なリスクがあると警告している。米 30 年債の入札が、米国のインフレ高進懸念や連邦債務上限の復活への警戒感から不調だったこともあり、米 20 年債や 10 年の TIPS 債の入札にも注意したい。米国の経済指標では、6 月の住宅着工・建設許可件数や景気先行指数などに注目している。

日本の経済指標では、6 月の対米貿易黒字の拡大基調を確認することになる。日本の 1-5 月の対米貿易黒字は 2 兆 2339 億円で、昨年同時期の 1 兆 6283 億円からは米国経済の回復を受けて拡大している。バイデン米政権は現在、日米貿易不均衡の是正圧力をかけていないものの要注意か。

ユーロドルは、22 日の欧州中央銀行 (ECB) 理事会でのフォワードガイダンスの変更にも注目。ラガルド ECB 総裁は、インフレ目標が 2%に引き上げられたことで金融刺激策の新たなフォワードガイダンスを再定義、再検討すると予告し、投資家に対して変化に備えるように呼び掛けている。さらに、2022 年 3 月まで予定されているパンデミック緊急資産購入プログラム (PEPP) の後の新たなフォーマットへの移行も示唆しており、ユーロ売り要因になるか注意したい。ユーロ圏の経済指標では、7 月の製造業・サービス業 PMI 速報値に注目している。

7 月 12 日週の回顧

ドル円は、パウエル FRB 議長のハト派的な議会証言を受けて、米 10 年債利回りが 1.42%台から 1.29%台まで低下したことから、110.70 円から 109.71 円まで下落した。パウエル FRB 議長は、下院金融委員会での証言でも、「米経済の回復について金融当局による大規模な資産購入の縮小を開始できるだけの進展はまだ見せていない」と指摘した。インフレ率については、「向こう数カ月高い水準が続いた後、鈍化する可能性が高い」との認識を示した。ユーロドルは、22 日の ECB 理事会でのフォワードガイダンス変更への警戒感から、1.1880 ドルから 1.1772 ドルまで下落した後、米 10 年債利回りの低下を受けて下げ渋る展開となった。ユーロ円は、131.09 円から 129.61 円まで下落した。(了)